

蔵王山の火口湖，御釜，2014 年 10 月 8 日の変色域

[まとめ]

1. 蔵王山の火口湖，御釜内において 2014 年 10 月 8 日の 15 : 10~15:35 頃の間に軽微な変色域が確認された。
2. 変色域は，10 月 8 日の 14:00 頃までは，700~500 m 離れた地点からは観察されなかったが，南西縁から観察された時には御釜から約 500 m 離れた地点からも観察できた。なお，9 日に行った御釜の縁からの観察では，変色域は確認できなかった。
3. 1939（昭和十四）年には，わずか 10 日ばかりの間に湖水が白濁し，湖面に溶融硫黄が漂い，その後湖面から蒸気が上がる活動が認められている。そのため，活動の推移を注視していく必要がある。

[本文]

2014 年 10 月 8 日に蔵王山の火口湖である御釜の湖面を，南東縁から観察したところ，幅数 m，長さ 100 m ほどのやや白から白褐色の帯状の変色域を確認した（写真 1，2）。変色域は，15 : 10 頃から 15 : 35 頃まで観察できたが，その後，日が陰り認識できなくなった。なお，10 月 8 日は 14:00 頃までは，御釜から 700~500 m ほど離れた馬の背の登山道沿いなどの地点からは変色域は確認できなかった。その一方，8 日 15:10 頃には，変色域から 500 m ほど西方に離れた地点でも変色域が確認できた。また，9 日に，再度，御釜の縁まで下りて観察を行ったが，その時も変色域は確認できなかった（写真 3）。

1939~1943（昭和十四~十八）年の活動では，1939 年 7 月中旬には異常が認められなかったが，その 10 日余り後の 7 月 24 日には湖水が白濁し，湖面に固結した溶融硫黄が浮遊し始め，11 月 3 日からは湖面から蒸気があがるようになった。湖底からの火山ガスの噴出は 1943 年まで続いた。このような事例から，今回の変色域の出現から，御釜の状態がどのように変化してくか，注視していく必要がある。



写真 1 御釜の変色域（黒長円内）。8 日 15:18 頃撮影。中央下側に白みがかった帯状の変色域が認められる。



写真2 変色域（黒長円内）の拡大写真. 8日 15:21 頃撮影. 右端から湧きだしたものが，湖面を帯状に漂っているように見える.



写真3 10月9日（11:17頃）の御釜. 西南西縁から湖面を望む. 双眼鏡等で観察しても変色域は確認できなかった.